

相原中学校だより

拓け 夢を、
築け 人生の礎を

熟考力（しっかり考える） 実践力（思いや考えを行動に） 意志力（自分に負けない）

学校の「安全」と「安心」

校長 伊藤 隆一

緊急事態宣言が5月31日まで延長されました。そのため、学校の臨時休校もさらに延長されました。休校期間もすでに2か月続いており、生徒・保護者の皆さんは不安をかかえた毎日をお過ごしのことと存じます。ご心配な点などがありましたら、ご遠慮なく学校までご相談ください。

学校の特長は系統だった学びが指導者のもと行えること、集団での学び合いが行えることです。学校が集団で学習や生活をする場である限り、感染リスク拡大を生み出すクラスターとなる可能性が高く、休校延長は仕方のない判断であると言わざるを得ません。常に2mのソーシャルディスタンスをとりながら行動することや、「3密（閉鎖された空間、人が密集している、会話や発声が行われる）」を絶対につくらないことは、学校には難しいことです。



さて、このコロナ騒動を通して、改めて安全と安心ということを考えさせられました。安全とは「危険（リスク）が存在しないこと」です。しかし、現実にはリスクをゼロにすることは不可能です。生きている限りはリスクとつきあっていかねばなりません。そのため、国際安全規格では安全を「受容できないリスクがないこと。リスクを許容可能なレベルまで低減させること。」と定義しています。「安全」を判断するのは、科学的・統計的根拠です。

それに対して、安心というのは気の持ちようです。リスクをなくせたと思い込んでいる状態が「安心」です。「安全は事実」によって、「安心は心」によって決められます。目の前にリスクがあったとしても、それを見えなくすれば人は「安心」できます。ですからカルト宗教にはまる人は呪術やおまじないを信じてしまい安心します。「安全」と「安心」は判断基準が異なりますから、一見矛盾したようなことも生じます。「安全であるが不安である」ことの代表例としては「風評被害」が挙げられます。「不安全であるが安心である」ことの代表例としては「正常性バイアス（多少の異常事態が起こっても、それを正常の範囲内としてとらえ、心を平静に保とうとする働きのこと）」が挙げられます。



今、私たちが求めるべきは「安全」です。新型コロナウイルスはまだ治療薬がなく、分からないことがたくさんあります。そのため不安になり呪術やおまじないみたいな予防法を実践したりすることは危険です。また、「安心」を求めるあまり、マスクを求めて行列に並んだり、軽症なのに無理に病院を何件もまわり検査を求めることは、残念ながら「安全」とは言えません。

学校安全の3領域として、生活安全、交通安全、災害安全があります。従来、災害安全においては、地震、津波、気象災害（台風・竜巻・大雪）等に対する備えとして避難訓練、防災訓練などを含む防災教育に取り組んできました。今回の災害に対してもどんな備えができるのか、今後に生かしていかなければなりません。

5月1日は開校記念日でした

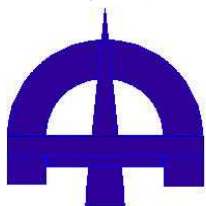
相原中学校は昭和55年に開校してから、41年目を迎えました。
開校当時の様子を創立10周年記念誌「あいはら ～築け人生の礎を～」より紹介します。

■第1回入学式

当時相原地区の急速な発展にともなって、超マンモス校だった旭中学校より、分離、開校しました。昭和55年4月7日、男子144名、女子137名、計281名の第1期生の入学式が行われました。



■校章制定



創立当初から、地域に開かれた学校めざしていた本校では、校章を、生徒や保護者ばかりでなく、地域の人たちにも呼びかけて公募し、その応募作品の中から、1期生の保護者である川桐宏二氏の作品を校章として決定しました。「相原」の「A」と中学校の「中」を図案化し、皆で手を取り合って、未来に向かって前進する様子をあらわしたものです。

■校歌制定

昭和57年11月29日に、待望の校歌の制定披露式が行われました。「自由を尊ぶ 相模野に・・・わが青春の礎を・・・築け・・・皆の輪で」本校が開校以来スローガンとしてきた「築け皆の輪で」を歌詞に取り入れたすばらしい校歌です。また、この校歌は、校章と同じく、生徒、保護者、地域の人々に呼びかけて、公募したものです。その中から、校章と同じ、川桐宏二氏の詩と、1期生（当時3年在学）の松木良子さんの曲が採用されました。



■校地の拡張

開校して間もない昭和55年、グランド拡張が話題にのぼり、地主氏に打診をおこないました。昭和57年、市の補正予算で予算化され、昭和58年1月譲渡契約が成立しました。昭和59年、テニスコートおよびバスケットコートが完成しました。グランドの狭さに根をあげていた生徒たちにとって、校地の拡張は大きな喜びでした。

■第1回優輝祭

体育祭と文化祭との2本立てだったものを、「優輝祭」と一本化し、昭和61年10月10日・11日の2日間にわたって行いました。「優輝祭」の「ゆうき」は「勇気」であるとともに、校歌の1節にある「優しく 輝く 白亜の塔」を示し、相原中学校を示しています。相原中生が、勇気を持って何事にもチャレンジしていくのだという意味をこめて命名されたものです。

